

緑の手

日下 沙織 香川県高松市 四十二歳

不思議な事に、私は沢山の植物と共に、生活をしている。毎日世話をして、話しかける。

以前の私からは想像もつかなかった事。

私が高校生の時、なんの目的もなく、勉強せずに済みそうな園芸科に入学した。

しかし・・・生き物を扱うという事は、簡単な事ではなくそれなりの知識の勉強、夏は暑く、冬寒い実習・・・女子高生だというのにダサい作業着に長靴・・・明けても暮れても植物の世話・・・しかも、直ぐに目に見える成果など実感できず、成長まで長い時間がかかる。

いい加減うんざりしていた頃、私が嫌々蒔いた野菜の種の芽が一斉に顔を出していた。

私の蒔いた種が一番、元氣よく育っていたのだ。

先生は私に「緑の手をもっているのかもしれないよ」と言った。

緑の手は植物を育てるための手だよと、先生は続けた。

なんだかとても嬉しかった。

畑に直植えされるまで、かなりの手間と作業が必要だったが、大きくなり収穫の時を迎えた頃には、作業着姿も、ドロまみれもどうでも良かった。

成し遂げた達成感があり、大切に育てた野菜が、誰かの口に入っていくのかと思うとワクワクした。

季節の野菜や、果物、花を育てた三年間は命を育てた三年間だった。

あの時の気持ち忘れられず、今も庭やお部屋で植物を育て続けている。

こぼれた種からまた新しい芽が出て、命が繋がっていく。

日々植物たちと季節を共に感じながら、こうして命を繋げていきたい。